

## 6. 景観検討

景観検討は、検討した橋梁が歩行者の視点での映り方を把握するために実施した。水平に長いラインを風景の中にどう生かすかをポイントに検討した。

### 6-1. 景観検討の流れと決定事項

景観検討を以下の順序で検討した。

- ① 支間の設定：50mに統一  
⇒3形式の背景を統一するために支間を50mに統一した。
- ② デザインの表現方法：3次元PDF、パース図、動画（ケーブルチューブ構造のみ）  
⇒3次元PDFの使用：視点位置の変更が可能なので、大まかなレイアウトの決定に使用する。  
⇒パース図の使用：3次元PDFで検討したアウトラインを踏まえ、3形式の橋梁のパース画の作成に使用する。  
⇒動画の使用：歩行者の視点で橋梁の見え方を確認するために作成した（参考）。
- ③ ロケーションの設定  
⇒都会のイメージ、渡河橋（掘込河道）、低層ビル群から高層ビル群など他の空間に向かうトンネル
- ④ CGのコンセプトの設定  
⇒異空間へのエントランストンネル
- ⑤ 視点場・色彩の設定  
⇒[視点場] 視線入斜角 $20^{\circ}$ 、俯角 $5^{\circ}$ 程度 [色彩]白色を基調
- ⑥ 構造細目の設定

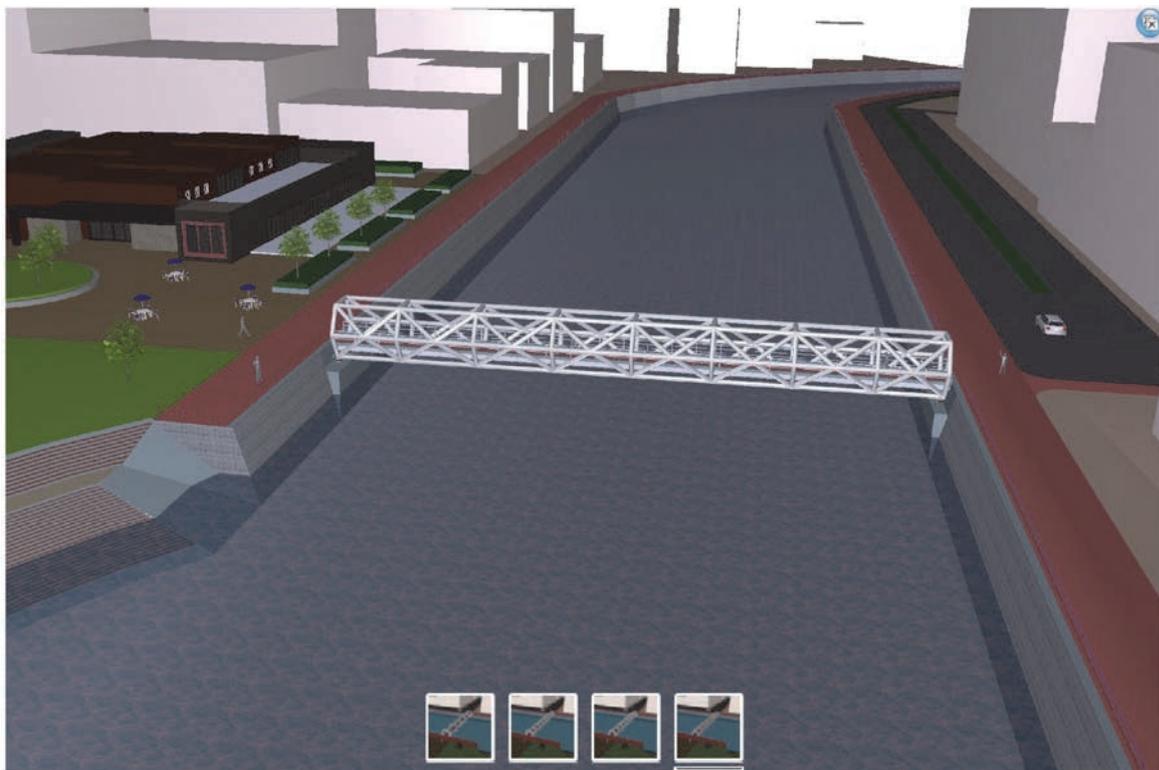


図 6-1 3次元PDFにおける対象橋梁

## 6-2. 各形式におけるパース図の作成

### 6-2-1 パースにおける概略検討

ラフなパース図を作成し、WG 内でイメージの共有を図った。以下がそのイメージ図である  
(図 6-2、図 6-3 参照)。



図 6-2 試作パース図 (その 1)



図 6-3 試作パース図 (その 2)

## 6-2-2. パース図における詳細検討

### (1) 共通方針

- ・橋梁の全体また各形式の特徴が把握できそうな角度として俯角 5°、視線入射角 20° 程度とする。

#### 各構造の特徴

##### 1) パイプチューブの特徴

- ・(外観) 強調しすぎない剛性の高さを有する構造
- ・(内部空間) 自然と対岸に向かうようなトンネルの感覚を頂かせる構造

##### 2) ケーブルチューブの特徴

- ・(外観) 端部などの要所にリングに力強さがあるが、全体的にスレンダーな構造
- ・(内部空間) 解放感があり、視覚的に歩行空間を楽しませる構造

##### 3) トラスチューブの特徴

- ・(外観) トラスが持つ剛性の高さや幾何学模様の面白さを有する構造
- ・(内部空間) 空間的にゆとりがあり、立ち留まらせたいような構造

構造細目は、パース図作成に焦点を当てて「構造」、「周囲の背景」を議論した。以下の内容が、議論した過程で検討された内容である。

#### [構 造]

- ・橋梁本体は、白色～グレー色で検討する。
- ・橋台が護岸に突出しないようにする。桁かかりに配慮する。
- ・橋梁用の柵を設置する。
- ・支承は歩道橋に使用されている支承を代用する。
- ・自転車・車椅子等に配慮し、段差は設けない。
- ・橋梁内の舗装はタイルをイメージして、薄い赤色とする。
- ・接合部等の詳細構造は考慮しない。

#### [周囲の風景]

- ・背景をビル群ではなく、公園側とする。
- ・船舶の航行は考慮しないこととする。
- ・季節は木々が生い茂る、夏とする。
- ・河川の色にコントラストに配慮する。  
※手前が明るく、奥が暗い。
- ・ビルは目立ちにくい、グレーの色とする。ただし、橋梁と判別がつきやすいように、暗めとする。

### (2) パイプチューブ形式の方針

雨除け等の機能を確保するために、上面に透明なパネルを設置する。

⇒検討したパースは図 6-4 の通りである。

### (3) ケーブルチューブ形式の方針

植栽部を設けて、アンカーケーブルを配置する。植栽部は違和感がないようにケーブルを中心に円形状の植栽部とする。⇒検討したパースは図 6-5 の通りである。

### (4) トラスチューブ形式の方針

雨除け等の機能を確保するために、上面に透明なパネルを設置する。

⇒検討したパースは図 6-6 の通りである。

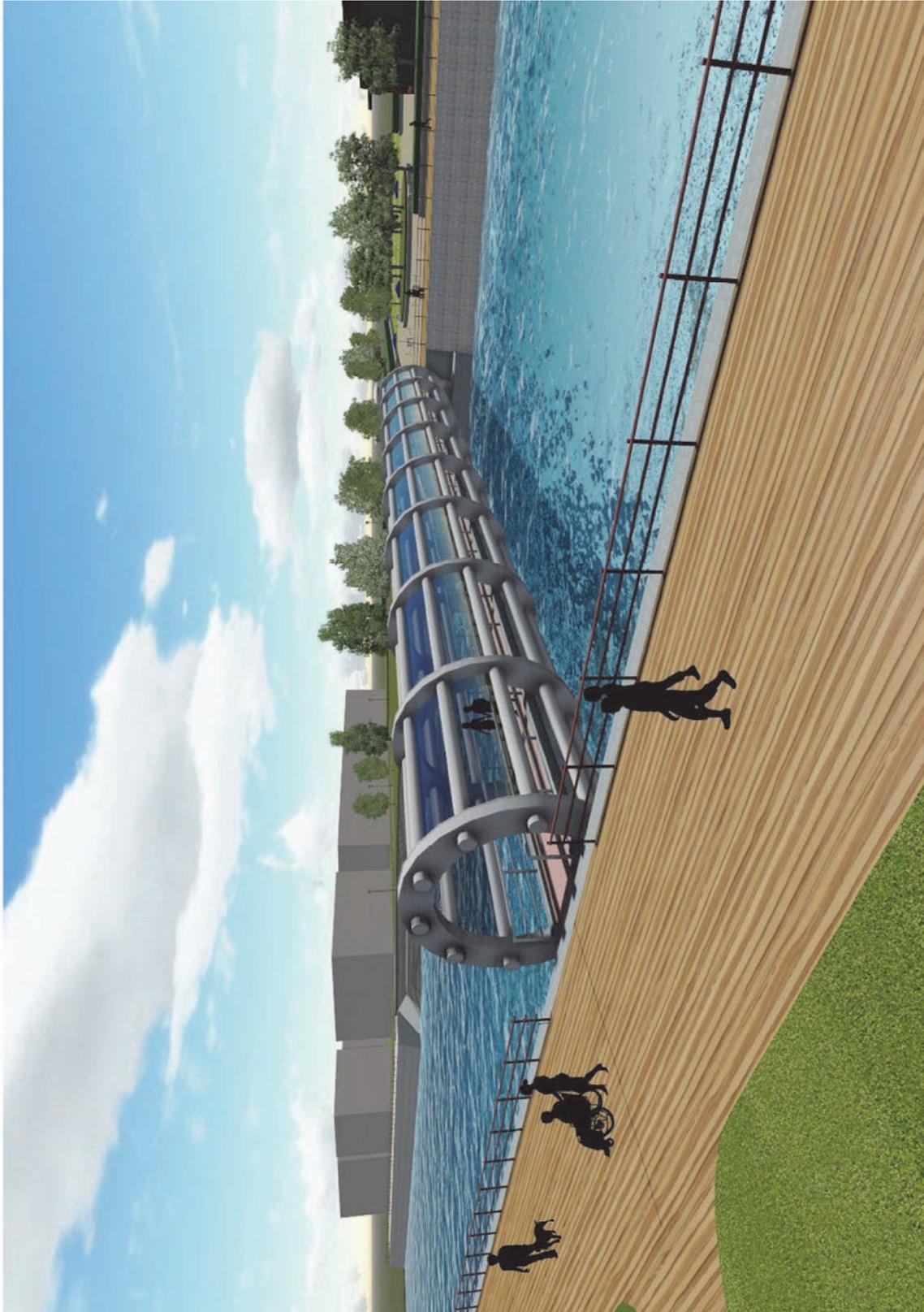


図 6-4 パイプチューブ形式



図 6-5 ケーブルチューブ形式



図 6-6 トラスチューブ形式

### 6-3. 動画における歩行者の視点検討（参考）

添付資料に動画を載せるが、ここでは参考程度にその静止画を紹介する。

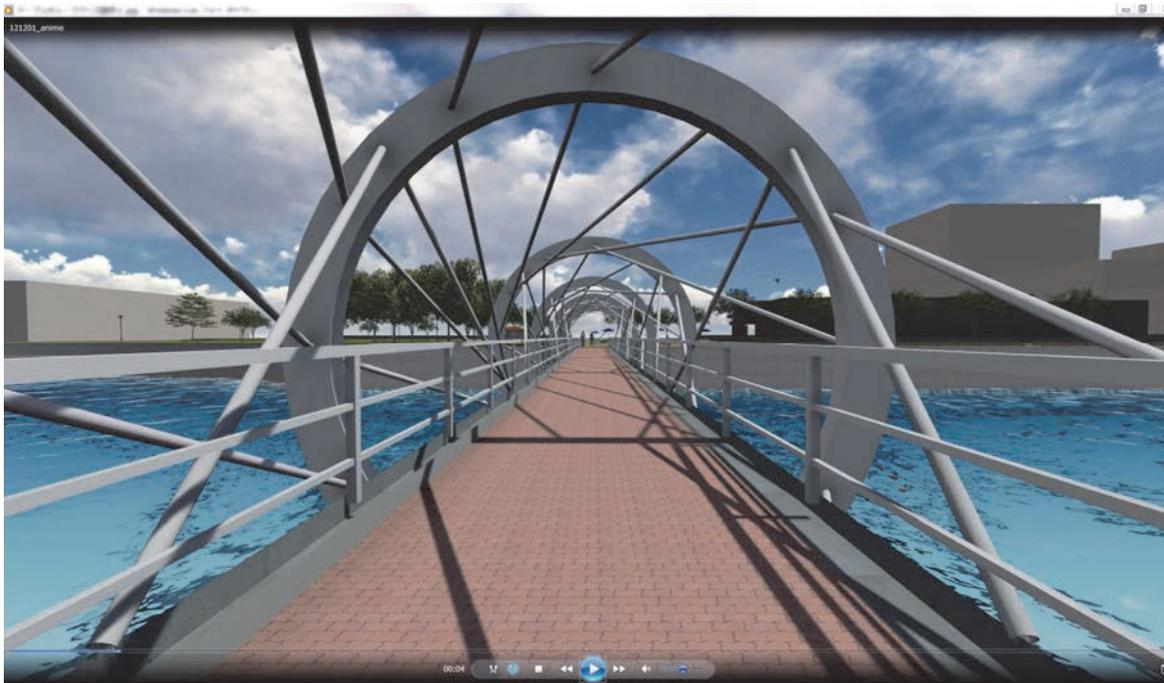


図 6-7 歩行者の視点 動画（その 1）



図 6-8 歩行者の視点 動画（その 2）